

大河原町 議会だより

第123号
平成24年5月1日



金ヶ瀬小学校入学式

- 一人当たり30万円使われます …… ②
- 一般会計原案通り可決 …… ④
- 9議員による町政への提言 …… ⑥
- 道の駅請願8対6で採択 …… ⑫



入学式前に教室で…

増の127億7千万円

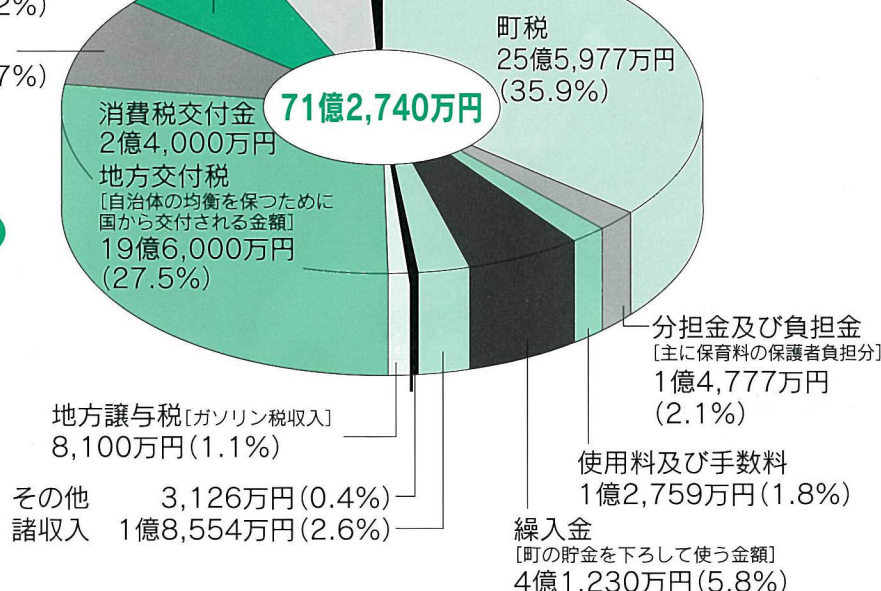
71億2,740万円

一般会計

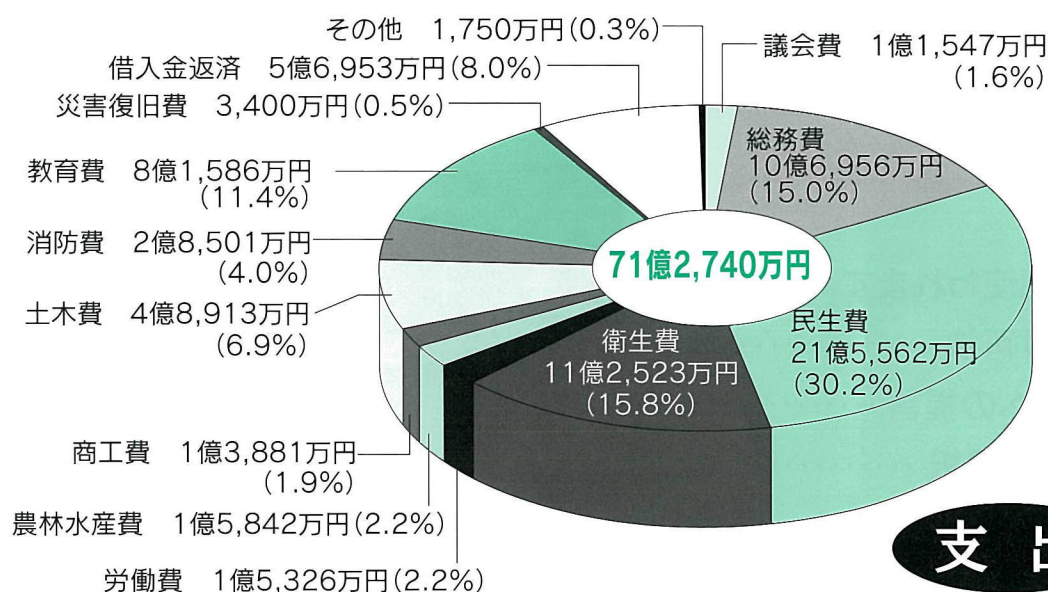
依存財源 51.4%

その他 5,600万円(0.8%)
 借入金 4億3,810万円(6.1%)
 県支出金 5億1,015万円(7.2%)
 国庫支出金 6億1,792万円(8.7%)

自主財源 48.6%



収入



支出

さらなる復興を目指すまちづくり
 一人あたり30万円使われます

予算規模は前年度比2.8%

一般会計

前年度比
1.4%減の



▲10日遅れの桜が満開の白石川堤

重点施策

町長施政方針

- 新公共交通システム導入で
元気なまちに
- 病院跡地を利用した
子育て支援の充実
- 放射能汚染対策を万全を期す
- 災害復旧で現状回復を目指す

7会計予算額

(単位:万円)

会 計 名	予 算 額	前年度比較
一般会計	71億2,740万円	△ 1.4%
後期高齢者医療特別会計	2億 291万円	4.9%
国民健康保険特別会計	21億9,783万円	4.3%
介護保険特別会計	12億4,429万円	0.1%
地方卸売市場事業特別会計	398万円	△ 40.2%
公共下水道事業特別会計	11億9,335万円	42.8%
水道事業会計	8億 217万円	△ 0.2%
合 計	127億7,193万円	2.8%

予算委員会審議

採択の結果 原案通り可決

問 桜保育所の砂は全量入れ替えるのか。汚染を防ぐ手立ては。砂の産地は。

答 昨年度も全部入れ替えた。ブルーシートで被っている。これからなので不明。

問 スポーツ少年団への補助金は毎年少ない。補助増の検討はされなかったか。

答 検討しなかった。次年度以降検討していく。

問 復興支援商工振興事業補助金1000万円の内容はどうか。

答 割増商品券900万円、事業費100万円。実施期間は7月から12月で、使用店舗はバイパス隣接店舗も使える（10店）。

問 重度心身障がい者タクシー利用助成制度に100万円計上されている。やる気がないのではないか。デ

マンドとは別に拡充に向けた取り組みがみえない。

答 制度導入後、利用者は低迷している。改善に向けた取り組みを今後も行っていく。

問 23年度で県の学力充実支援補助事業は終了したが、今後の小中学校への取り組みは。

答 今年度からは町独自の取り組みとして、昨年同様の補助を継続的に町内の各小中学校に対して行っていく。

問 新年度の学校給食単価は。県の学校給食会の米・パン単価を示す他の直接的にかわりは。

答 小学校が1食275円、中学校が1食320円で昨年度と同じ。一般物資の選定、一般物資の購入に関わってくる。

〔反対討論〕

佐々木守伸 議員

平成24年度は第5次長期総合計画の第2年度になるが、この長期総合計画との整合性が無い一般会計予算である。また、産業振興策といつてほのめかしている道の駅建設計画案は未だまだ議会で採択されていない。よってこの議案に対して反対である。

万波孝子 議員

県の方針に従い、子どもの健康調査を実施しない姿勢は改めるべき。

堀江一男 議員

どのように執行するか見極めるのが基本であり、無回答の事業は認められない。

岡崎 隆 議員

子供・障がいの方達への配慮も震災経験も反映なく町側の姿勢を正すためにも。

松井美子 議員

介護保険料値上げをもとに予算組みされていること。

〔賛成討論〕

丸山勝利 議員

町民の安全と安心を最優先にした政策を盛り込みながらも、広域的な視点も踏まえた上で「認めあい・支え合い・活かしあう」開かれた先進のまち、おおがわら」を目指す覚悟が十分に伝わってくる予算であると考える。

賛成議員

反対議員

- | | |
|-------|--------|
| 丸山 勝利 | 岡崎 隆 |
| 佐藤 貴久 | 堀江 一男 |
| 山崎 剛 | 枡 和也 |
| 半澤 敏美 | 松井 美子 |
| 庄司 充 | 佐々木 守伸 |
| 秋山 昇 | 万波 孝子 |
| 安藤 征夫 | |
| 平間 孝士 | |

3月定例会

一般会計主な補正予算

収入	
地方交付税	3億9200万円
国庫支出金	△2億102万円
県支出金	6100万円
繰入金	△2億7041万円
町債（借入金）	△2億2860万円
支出	
東日本大震災復興基金積立	8000万円
土地開発基金繰出金	2億円
仙南地域広域行政事務組合負担金	5309万円
金ヶ瀬小学校バリアフリー対策事業	3400万円
収入	
農業用施設災害復旧事業国庫補助金	1820万円
町債（借入金）	1080万円
財政調整基金	△2862万円
支出	
各種全国大会援助金	22万円

住民の足に 新たないぶき

デマンド型乗合タクシー運行 全会一致で可決

この条例は、大河原町生活交通ネットワーク計画に基づき、デマンド型乗合タクシーの運行に関して必要な事項を定めることにより、公共交通の利便性の向上を図るとともに高齢者等の地域福祉施策の増進、地域産業、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。

この条例は第13条からなり、主な内容は、運行方法、運行区域、運行日等、利用料金の減免、割引利用の制度が定めてあり、運行条例は公布の日から施行する。

問 回数乗車券はどこで購入できるのか。乗車券の有効期限は1年間というが、期限が過ぎて使用できないことが生じないよう有効期限の周知徹底と見落としがないよう大きな活字で表示してもらいたい。

答 駅前オーガビルの1階に設置される予約センターとデマンドタクシーの車内でも販売できるようにしていく。利用者にとって購入する際の手間を少なくするように今後も検討を重ね工夫していく。

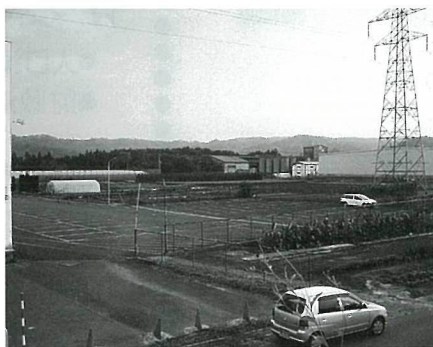


▲デマンドタクシー使用予定車両

川根地区に工場誘致 土地開発基本条例改定

当町における工業地域は金ヶ瀬川根団地だけであり、昭和47年宮城県醤油醸造組合工場が誘致されたが、現在は空き地の状態となっている。そこに、町内の優良企業が工業用地として購入したい旨の話がありこの度整備をして工場を誘致するものである。

全会一致で可決



▲川根地区

介護保険料改定 基準額で600円増

保険料の公正・公平性を確保する。利用者が安心してサービス提供が受けられる体制づくりに努める。

問 介護保険料が月額300円から900円に値上げとなるが、一般会計からの繰入で値上げを見送ることはできなかったのか。

答 介護準備基金の方から1000万円繰り入れての結果なのでご理解頂きたい。

賛成12人 反対2人

〔反対討論〕

松井美子 議員

年金が減らされ高齢者の暮らしは厳しくなっている。条例改正で介護保険料が引き上げられる。所得区分の段階で月額600円増、年額も1万800円まで負担が増える。消費税率の引き上げの動きもある。これ以上の負担増、保険料引き上げは止めるべきである。



万波孝子 議員

障がいを持った人たちが、地域の中で差別されず、生きがいを持って暮らせるために働ける場、生活できる場を作ってほしいという願いが託された1483名の

問 (1) 署名後多くの町民が大きな期待と関心を寄る旨の説明があった。そして、その候補地は不動態保育所跡地で、協議している事がわかった。

つているか。
(5) 仙南に重症心身障害児(者)通所、入所施設の整備を促進するよう、県に強く働きかける考えはないか。

ルの中で協議をしていく。
(5) そのように働きかける。

障がい者支援施設要望実現

一般質問

一般質問とは、町長に対して事務の執行状況や将来に向けての考えなどをただすもの。
今回9人の議員が行った。

万波孝子 議員P⑥

- 障がい者支援施設要望実現
- 「放射線副読本」(掲載外)

枡 和也 議員P⑦

- 体育学習における武道の必修化にどう取り組む
- 放射能汚染状況重点調査地域の指定をうけて「放射線対策」(掲載外)

堀江一男 議員P⑧

- 放射能対策にどう取り組む

秋山 昇 議員P⑧

- 選挙公約の進展にどう取り組む
- 小・中学校に新聞を教材として(掲載外)
- 地域運営学校(コミュニティ・スクール)の法制化について(掲載外)

丸山勝利 議員P⑨

- 自転車の安全にどう取り組む

半澤敏美 議員P⑩

- 防災対策にどう取り組む

松井美子 議員P⑩

- 保険料引き上げる第5期介護保険事業計画
- 課の再編と町農政(掲載外)
- 大震災復興・放射能汚染(掲載外)

佐々木守伸 議員P⑪

- 人口減少化社会への対応はどうか
- 財政規模の維持(掲載外)

岡崎 隆 議員P⑫

- 今後の産業振興策はどう進む
- 役場の交通安全への取り組み(掲載外)
- 地方分権を見据えた近隣自治体との連携が更に必要(掲載外)

町政への提言 Q & A



枡 和也 議員

体育学習における 武道の必修化に どう取り組む



▲障がい者支援予定施設

問 本年4月より中学校校保健体育の授業において現在選抜制の武道を中学1、2年の段階で男女問わず必修化に移行することとなり、当町では、設備費用の面から柔道を取り入れることが決まっている、新聞で「柔道稽古中、意識障がいや死亡云々」の記事を目にし、当町の中学校での指導現場の態勢は大丈夫なのか、またこれまでの中学校での柔道の取り組みについてはどうか。

(1)各中学校で、授業に柔道を取り入れて何年か。
(2)必修化になり、年間の時間数はどうなるのか。

署名簿が、障がいを持つ親から町に提出されたのは平成22年12月議会のことである。この動きに呼応し昨年8月町長から、議会全員協議会において、社会福祉法人白石陽光園が、仙南圏域に生活介護（通所更生）施設と在宅多機能サービス拠点（アサシテ）を併設した施設を設置したい意向でい

答 (1) S 58年頃から男子の選抜授業として、H 21年から必修化へ移行期として男女ともに取入れた。
(2)年間10時間程度。
(3) H 22年度は0件。H 23年度は、大中で足の甲を亀裂骨折1件、金中で頭部打撲、頸椎捻挫の2件があり、いずれも技を掛合う練習中に

(3) これまで、柔道の授業での事故・怪我の件数と状況を伺う。
(4) 体育の先生の人数と柔道経験の状況はどうか。
(5) 事故を未然に防ぐために今後町が進める先生への指導はどういったものか。

せているが、その後どこまで話がすすんでいるのか。
(2) 公共用地は全て無償貸与と理解しているのか。
(3) 企画や設計段階で、町が設置者に要望している事、或いはこれから要望しようとしていることは何か。
(4) 重症障がい者の受け入れもする事になっているが、医療機関との連携はどうな

必修化に向け 安全対策は万全

ちょっと
ひとこと

答 (1) 現在の状況は保育所施設の有効活用と増築を考えている。3月中に話し合いをする事になっている。
(2) 基本的に無償貸与となる。
(3) (4) 施設の設置・運営については、白石陽光園が行うが、町としては設置に係る趣旨や目的を十分に理解し、今後、具体的なスケジュール

発生している。
(4) 大中に5名、金中に1名が配置され、全員大学の授業で柔道を履修し、また大中には有段者が3名いる。
(5) 町教委としても、柔道の危険性は十分認識している国・県・教育事務所主催の研修会に積極的に参加させ



▲大河原中学校柔道部活動指導

安全対策についても十分研修を積みませ、指導力の向上を図り、より安全な授業を行える態勢を整えていく。

署名に託した
みんなの熱意が
行政を動かす。
涙・感動

ちょっと
ひとこと



秋山 昇 議員



堀江一男 議員

放射能対策に どう取り組む

問

(1)汚染状況重点調査地域の指定を受けたメリット・デメリットについて示してほしい。

(2)岩沼市・蔵王町等が申請しなかった理由がわかれば示してほしい。

(3)除染計画が出来上がるのはいつごろになるのか。

(4)町の除染計画の対象外になる場所は出てくるのか。

(5)公園等の放射線測定値が下がった要素はなにか。

(6)放射線測定器の貸し出し状況について教えてほしい。

(7)食品用放射能測定器を購入し、保育所及び学校給食センターの食材を試験的に

行うとのことだったが、今

答

日までの結果を示していた
だきたい。

(1)風評被害等が懸念されたが、国・県の指導、

支援を受けながら除染計画を策定し、除染を行う事により町民の安全で安心な生活が得られると考えた。

(2)線量が年間1mmSvを超える地域がなかったものと受け止めている。

(3)本年3月中には策定する予定としている。

(4)町では学校や公園、さらに町内135か所で詳細に測定しており、平均値が1時間あたり、0・23μSv

以上の区域が除染実施計画

の対象で、それ以外の区域は対象外となる。

(5)期間の経過とともに徐々に下がってきている。また、積雪により放射線がある程度遮断されたものです。

(6)8日間で累計62台を貸し出している。

(7)学校給食センター及び保育所の食材について野菜類を中心に試験的に測定しているが、すべての食材で検出されていない。

選挙公約の進展にどう取り組む

大河原町の舵取り役となり7年と5カ月を過ぎようとしている。本年当初の挨拶として、地方自治の側面からみて、自己決定と自己責任のもと、地域の実情

問

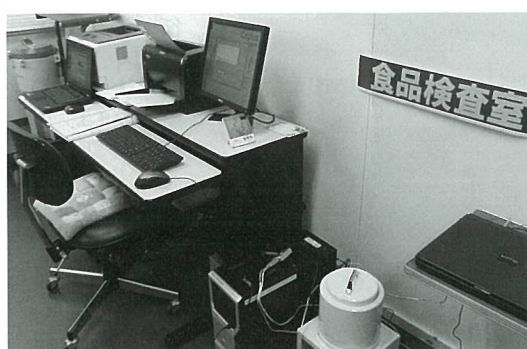
基本と理念のもと幾つかの公約を掲げた。振り返ってみて、公約の進展についての見解はどうか。

(1)公約を掲げた中で実現したもの。また未解決の実現、小中学生の入院時医療費の一部助成、子育て支援センターは、旧町立病院跡地を活かして児童クラブや世代間の交流にも利用できる多機能複合施設

めざし責任ある行政経営を果たしていく覚悟をしております。

除染で安心・安全を

ちょっとひとこと



▲役場内放射能食品検査室



丸山勝利 議員

自転車の安全に どう取り組む

問 近年、エコ意識の高まりや東日本大震災以降燃料費の高騰により、自転車通勤や通学も増えている。自転車利用の増加に伴い自転車の関係する事故が増加するとともに、自転車が歩道を無秩序に通行している状況がみうけられる。被害者加害者双方が不幸になる自転車等の関係する事故を当町から無くすようにするためにも以下伺います。

(1) 自転車の通行に関して当町の道路整備状況は。

(2) 小中学生への自転車の安全な乗り方の教育はどうか。

答 (1) 県道大河原停車場線に青色に表示された自転車レーンが設置されているが、町道では自転車レーンが整備された路線は無い。

(2) 警察署や交通安全指導員のご協力をいただきながら、模擬コースや通学路を使用

現在町内の小中学校では、模擬コースによる自転車の実技指導をしている学校としていない学校とあるが、統一して全小中学校でおこなってはどうか。

(3) 一般町民へのマナーやルールの広報啓発は。

自転車での
マナーとルールは
大切です

ちょっと
ひとこと



▲大河原小学校自転車置き場

元気な大河原っ子医療費助成が始まります

町では、子育て中の保護者のかたを応援するために、お子さんが入院した場合の医療費(平成23年4月診療分から)の助成を中学生までに拡大します。

対象者 町内に住所を有する小学校1年生から中学校3年生までの各種医療保険に加入している児童及び生徒

※乳幼児医療費助成の登録があり、所得制限で対象外となっていた小学校就学までの児童も対象になります。

助成内容 保険診療による自己負担額(入院時食事療養費、健康診査、予防接種、室料差額は除く)

助成額 支払った医療費から高額療養費や付加給付額、ほかの法律で負担する額及び自己負担額5,000円を差し引いた額

申請方法 医療機関で精算後、町民生活課保険給付係(役場1階)で手続きしてください

持ち物 ・対象者の保険証 ・明細のある領収書 ・印鑑 ・振込先の通帳
・付加給付に関する証明書(国保と健康保険協会健康加入者は不要)

※交通事故やけんかによるけがなどで入院した場合の医療費は、助成の対象にはなりません。

問合せ 町民生活課 保険給付係 ☎53-2114

▲平成24年4月広報おおがわら入院費補てん文章

に合わせたまちづくりが可能な時代となり、町としてもより「大河原町」らしくまちづくりの取り組みを進めると言われ、今後も開かれた先進の町、として現場主義に徹すると共に、一層経営感覚を大切にしたい町づくりに磨きをかけると言われているが町長として前回2期目の町づくりとして、

答 (1) みやぎ県南中核病院の充実強化を図ること、子育て支援の充実、未就学児童の医療費の無料

決のものもあると思うが、今後の見通しについて

(2) 24年度の、当初予算、施政方針は、これは引き続き町政を担当する決意も加味された予算編成から伺う。

として平成25年度整備予定道の駅構想について金ヶ瀬さくら大橋の完成のもと町の持つ拠点性、産業振興政策を考え大いに議論を重ね方向性を導き出したいと考えている。

(2) 町民の皆様が安全安心して暮らしていけるように「認めあい、支え合い、活かしあう」先進の町大河原町を

して実技指導を実施してきたい。

(3) 春、秋の交通安全運動期間前に交通安全チラシを全戸配布している。また交通安全指導員による毎朝の街頭指導で自転車利用者に対してマナーやルールの指導もおこなっていく。

地方分権時代の主役は
住民である

ちょっと
ひとこと



松井美子 議員



半澤敏美 議員

防災対策に どう取り組む

問

東日本大震災後全国世論調査を実施し、今住んでいる地域で大震災が起きる不安を感じる人は78%に達し、国民の不安が今も収まっていない。

(1) 予想される宮城県沖地震等への備えと防災力強化への取り組みはどうか。

(2) 避難所の防災機能向上と避難所への避難訓練の考えはないか。

(3) 大雨に関する川の氾濫情報と住民の対応は。

答

(1) 今回の東日本大震災により、自主防災組織

問

の重要性が改めて見直された。災害時には自助・共助といった地域コミュニティの中での助け合いが重要であり、備蓄品の配布などと合わせ、地域防災力の向上を図りながら住民参画の実現を目指す。

(2) 避難所の防災機能の整備は、防災行政デジタル無線を各避難所に配備し、避難所との情報伝達手段の確立を図る。また避難訓練は、一時避難所、指定避難所へ避難するよう今後訓練等も検討する。

(3) 白石川での氾濫注意水位

住民参画による
「防災協働社会」の
実現・安全安心の町づくり

ちょっと
ひとこと

は、15・2メートルとなっており、これは白石川の堤防に表示しており、黄色い部分になります。住民の避難準備と水防団出動の目安となっており。水位が上がり17・1メートルで避難勧

告17・8メートルで避難指示を発令する目安となっており、いずれも堤防の表示の赤色部分です。



▲白石川左岸大河原水位観測局

保険料引き上げる第5期介護保険事業計画

問

平成24年度から26年度までの第5期大河原町介護保険事業計画に介護保険料の引き上げが盛り込まれた。

(1) 年金が下げられる一方で

答

(1) 保険料は介護保険法施行令に基づいて設定

している。
(2) 督促状や催告状による納

割合の引き上げを求めよ。

(6) 介護保険基準に則り専門職を配置している。
(7) 規定で負担割合が決まっている。



佐々木守伸 議員

人口減少化社会への 対応はどうするのか

答 人口減少時代における町の認識は、「第5次長期総合計画」基本構想の通り、日本の人口は今後急速に減少していくと国立・社会保障・人口問題研究所が

問 日本にも遂に人口が減少する時代がやって来た。このことは予想はされていたが、政府発表は今回数字的に鮮明に今後10年間または2050年時点として捉えられ発表された。大河原町も多少の差異があれ予測された方向へ進むものと推測される。これに関して町の現状分析と今後政策の方向についてはどうか。

示しており、第5次長期総合計画は向う10カ年間の町の状況を見据えて策定した。町の認識は、昨年の施政方針でも延べた通り、減少する年齢層は、生産年齢人口の15歳から64歳までの生産活動や消費を含めた経済社会全体を支える64歳までの年少人口の層であり、逆に65歳以上人口が増加していくのがこれからの時代です。従って現役時代は勿論、65歳以上の元気なお年寄りが生き生きと暮らして働き続ける環境そして女性も安心して子育てができ、そして働きやすい環境の創出が必要で、そうした方向で政

第5次長期総合計画との
整合性は順守しよう

ちょっと
ひとこと



▲第5次長期総合計画

策を立案して行く所存であります。

人口減少対策の方法は先ず「子育て支援のための環境整備」や「産業興しによる就業機会の拡大」、更には「医療・福祉サービスの充実」や「観光産業等による交流人口増加」といった政

策が有効と考えられます。短期的には、子育て支援施設の整備、みやぎ県南中核病院の機能強化、金ヶ瀬川根工業団地の用地取得、道の駅も同様に考えています。

▲介護保険料改定(広報おおがわらより)

の保険料引き上げは月額300円でも負担は大きい。第1、2段階の人の据え置きは考えなかったのか。

(2) 全所得段階で滞納が出ている。これまでの対応と平成24年度の対応について。

(3) 特養ホーム(老人福祉施設)の30床増床の実現はいつ頃になるのか。

計上している。これを利用して当町への地域密着型特定施設・介護老人施設の建設は考えられないか。地域密着型施設は必要と考えるのか。

(6) 地域包括支援センターの人的配置は十分か。

(7) 介護保険料と利用料の1割負担は重すぎる。国負担

付催告と納付相談により分納誓約を結び付けている。制度の理解を納付につなげる。

(3) 平成26年4月になる予定。

(4) 本町や近隣町の施設待機者数から一挙の解消は困難。

(5) 県の建設費補助は自治体の事業計画に盛り込んだ分の予算措置だ。必要性は感じて

介護が遠のいて、
高齢者はますます
生き難くなるね

ちょっと
ひとこと

請願採択 反対6人

平成23年12月15日に“大河原町の未来を考える会”より国道4号金ヶ瀬道の駅設置に関する請願書が提出され、2つの委員会による連合審査会方式で、2度にわたる審査、協議が行われました。24年2月13日の3度目の審査会において、産業建設常任委員会6人によ

平成23年12月15日に“大

枡 和也 議員

〔反対討論〕

2年前に、道の駅に関して、議会としての意思表示をすでにしていること。前回の町民5275名の署名は重く受けとめなければならず、税金を使うのであれば、優先順位は教育施設などの建て替えを含めた老朽化対策福祉政策に向けられるべきである。

丸山勝利 議員

〔賛成討論〕

道の駅が出来ることにより大河原町の観光や産業に波及効果が大きい期待される。雇用が生まれ特に女性や障がい者雇用などが見込まれる。運営方法については今後議論が必要ですが、大河原町の発展と将来を見据えて、道の駅は必要と思われる。

岡崎 隆 議員

〔反対討論〕

平成22年3月議会でも5275名の署名簿を添えた請願を採択し、道の駅はいらないとの結論に至っている。本請願は署名も添えられずに10数名の大河原の未来を考える会より提出された。議員であるならば町民の想いを重く受け止め、反対は当然である。

今後の産業振興策はどう進む



岡崎 隆 議員

問

超少子高齢化社会、人口減少社会となり長引く不況、社会保障制度への不安等、住民は不安な生活を強いられている。議会、役場には一層厳しい視線が注がれることは当然であり、現在『道の駅』の論争が独り歩きし、町民の絆を乱しつつある。責任世代の一人として大きな不安を抱くものであり、町長の姿勢を再度伺う。

(1)震災を経て『町民を取り巻く環境に大きな変化が生じている』とはどういうことか。
(2)『道の駅』もわが町だけの取り組みでは成功しない。

答

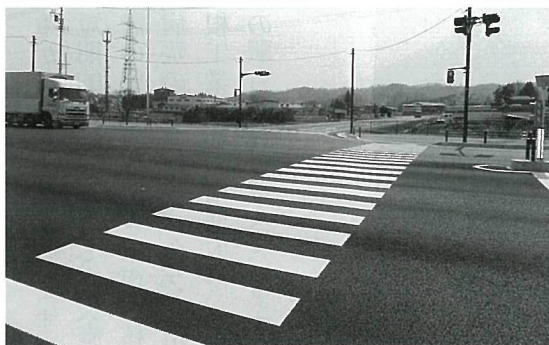
(1)住民が災害に対する危機意識を真剣に考えるようになった。コミュニケーション意識が高まったと考える。
(2)現在の低迷している経済

前項での質問同様、広域連携が必要であり、自治体同士の良い関係が重要であると考える。町長はこれまで、近隣市町村との対話の場で、言語は極めて明瞭であるのに、誠意ある行動が示されていないことに不安を感じる。産業振興策、医療等での今後、更なる地域連携強化に向けて姿勢を改めるべきと考えるがどうか。

開かれた
先進のまちですか

ちょっと
ひとこと

情勢にあつて、本町らしい視点を大切にしながら『道の駅』に繋がるような産業振興の組み立てとしては、地域資源を結びつける農工商観連携を強化する取り組みが必要と受け止めている。当然、仙南地域全体の活性化に繋げていく視点が、本町の産業振興の可能性を拡大することになると考える。



▲道の駅建設候補予定地

二つの特別委員会を設置

放射能対策に監視・提言
議会改革をさらに加速

放射能対策室長等より現状の説明を受け、現地調査を行う、除染計画等の進捗状況等の精査を行うものとする。

二元代表制の一翼として、積極的に住民を守るとの観点から定例会ごとに中間報告を行うものとする。最終報告は平成25年3月を予定している。

放射線から住民を守る特別委員会とする

〈委員会への進め方〉

放射線から住民を守る放射能対策を協議

〈名称〉

放射線から住民を守る特別委員会とする

委員会構成メンバーは、議長を除く議員全員によるもの。なお、委員長は半澤敏美議員。



▲放射線から住民を守る特別委員会

開かれた議会づくり調査特別委員会とする

〈委員会への進め方〉

構成メンバーは、議長を除く議員全員によるものですが、実務は小委員会方式を採用し、小委員会で素案を策定し、全体会にはかり、決定していくシステムとなる。今年度12月を目標に“開かれた議会”には何が必要で、何をすべきかを協議。なお、委員長は枅和也議員。

開かれた議会づくり調査特別委員会とする

〈名称〉

開かれた議会づくり調査特別委員会とする

委員会構成メンバーは、議長を除く議員全員によるもの。なお、委員長は半澤敏美議員。

開かれた議会づくり
議会基本条例策定を目指す

〈名称〉

開かれた議会づくり調査特別委員会とする

委員会構成メンバーは、議長を除く議員全員によるもの。なお、委員長は半澤敏美議員。



▲開かれた議会づくり調査特別小委員会

道の駅 賛成8人

る反対、賛成討論の後に表決が行われました。賛成反対が同数となったことから、委員長裁決により、本請願は委員会では採択となる。

さらに3月15日の定例会におきまして、7人の議員による反対、賛成討論の後の表決で、議長を除き8人対6人で本請願が採択と決定しました。

〔賛成討論〕

半澤敏美 議員

「道の駅」の果たす機能については、東日本大震災を契機に災害時の拠点として大きな役割を果たすこととなる。防災や、災害時の情報発信機能を備えた避難施設として、全国的に「道の駅」が見直しされてる。

なお、秋山議員は賛成、佐々木議員、万波議員は反対討論を行いました。その内容は別掲の討論と同様で、産業や防災を含めた経済の活性化の議論の必要性、反対に関しては、長期総合計画に設置はない、税金は福祉、医療、暮らしに使うべきものという考え方です。

賛成議員

丸山勝利	佐藤貴久
山崎剛	半澤敏美
庄司充	秋山昇
安藤征夫	平間孝士

反対議員

岡崎隆	堀江一男
枅和也	松井美子
佐々木守伸	万波孝子

総括質疑

新年度の予算はどう執行されるのか。有効に町民のために運用されるか、今回は3名の議員が質問しました。

堀江 一男 議員

佐々木守伸 議員

万波 孝子 議員

問 (1)小学6年生まで医療費を無料にする考えはないか。

(2)県道蔵王・大河原線の用地取得を本年度から着手するとあるができるのか。

(3)議会報告会の時、役場の財政状況がわかりにくい「貸借対照表」などで公表してほしいとの要望があつたので実現してほしい。

答 (1)対象年齢の引き上げについては今後検討していく。

(2)2月に金ヶ瀬公民館で県土木事務所による説明会があり、地権者の同意を得られたので、着手される。

(3)今年度のできるだけ早い段階での公表に向け、現在準備を進めている。

問 平成23年3月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏洩事故による汚染問題が発生した。この長期計画にどう影響し、今後見直しの必要はないのか。

答 東日本大震災及び福島第一原子力発電所の放射能事故と長期計画への影響、今後の見直しについてであります。長期総合計画の基本構想及び基本計画につきましては、災害時の迅速な対応や災害に強いまちづくりを定めているもので、特に見直しは必要ないかと受けとめているところですが、実施計画につきましては、毎年の見直しの中で、対応していく考えです。

問 (1)東日本大震災から学んだ教訓は何か。

(2)放射能汚染で心配されている子ども、妊婦等の健康調査委実施の考えはないか。

(3)国の「社会保障と税の一体改革」は消費税増税とセットで、年金支給年齢を68歳からにする等社会保障改善である。町民の命と暮らしを守る町長の見解は。

(4)TPPをどう考えるか。

答 (1)自主防災組織の役割は非常に重要でその育成が課題。

(2)県の方針通り実施しない。

(3)国民が議論すべき課題だ。

(4)TPPには反対である。

所管事務の調査報告

総務文教常任委員会

放射線への中学校での対応と残留調査

給食食材では出荷制限のある地域からの食品は納入していない。生徒と保護者に対し「食材の安全性」を知らせ、校長から「震災と原発事故」の話もした。宿泊行事はPTA総会で説明を公表し、安全確保に努める。周辺で測定調査し、国の財政・技術支援を受けながら適切に処分する。

産業建設常任委員会

震災復旧の進捗状況を調査

下水道復旧工事の際は、住民に情報を周知徹底し協力を得るのが望ましい。紙類等極力流さないようお願いしている件も、情報をこまめに周知するように。道路復旧工事では、特に下水道被害箇所は連携を密に迅速な復旧と工期の遵守を望む。台風での農業施設関係の復旧工事では、自然に配慮した工事が望ましい。



▲大河原中学校グラウンド



▲大谷の町道

追跡レポート

その後どうなった
あの提言

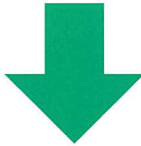
議員が行う提言は、町政にどのよう
に反映されているのでしょうか。
これまでの質問の中から、その後
の経過について追跡レポートを実
施してみました。



▲役場2階

質 問

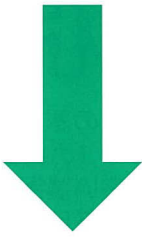
放射能対策室の設置を町内各所でマイクロホットスポットの存在が確認されている。除染対策を徹底するために早急な対応が必要。



追跡結果

平成24年1月1日に当町が汚染状況重点調査地域の指定を受けると同時に放射能対策室を設置。職員体制は3名。兼務発令次長6名。
4月から国の除染計画に沿って学校、公園等を優先し除染を実施。

平成23年
9月



24年
4月



議 会
活動日誌

今回は1月・2月・3月・4月の活動報告をいたします。

1月

27日 連合審査会

2月

13日 議会運営委員会
第8回定例会(2月会議)

全員協議会

連合審査会

29日 議会運営委員会

3月

1日～15日

第1回定例会

全員協議会

予算審査特別委員会

27日 広報編集委員会

4月

11日 放射線から住民を守る
特別委員会

20日 開かれた議会づくり
特別小委員会

こんな町に住みたいな

大河原小 村上 柊



大河原小 大本 晴美



ぼくが生まれてからずっと住んでいる大河原町は一目千本桜が自慢です。桜の寿命は70年といわれていますが、一目千本桜は平均寿命を過ぎても町の人たちが支えられて咲き続けています。ぼくが大人になったら、今と同じように咲き続けるようにぼくもできるだけのことをやりたいです。また、ぼくは少年野球をやっているいつも地域の人の指導してもらったり応援してもらっています。ぼくも、地域の人たちを支えられる人になりたいです。

私は、大河原が大好きです。近所のおばあさんは、とても明るく元気です。震災のときはろうそくなど分け合って助け合いました。その他の近所の人たちも、元気で明るく、区長さんとはいつもあいさつをします。お年寄りが元気で、人々が明るい町はとても素敵だなと思います。これからもっとだれとでも明るくあいさつができる町であってほしいです。そのために私も進んでだれとでもあいさつをするよう心がけていきたいと思っています。

6月議会のお知らせ

招集日 6月6日(水)・再開日 6月12日(火)

詳細は議会事務局まで ☎53-2800

街かど

ワンショット

雨にも負けず、風にも負けず、冬の寒さにも負けず、もちろん放射能にも負けず、1カ月遅れの春のいぶきが芽生え、新古川ふれあい農園でも野菜たちが元気よく成長しています。5月になればチューリップ等の花々が私たちの心を和ませてくれます。機会があれば、散策してみてください。



プラスワン



昨年は東日本大震災で中止となりました繁昌院（東の寺）の春祭り火伏の神様秋葉三尺坊大権祭典が4月1日に行われ町内を火防災除のご祈禱をしていただきました。皆様の生活が豊かで幸せである様に様々な災難から逃れられるようにお守り下さるのです。

編集後記

昨年は1000年に一度と言われている東日本大震災と大津波、福島第一原発事故と未曾有の大被害を受けた。1日でも早い復興をと、上下水道、町道整備に全力を上げて取り組んでいる所です。議会としましては「放射線から町民を守る特別委員会」を設置し議員全員で対処してまいります。

(平間 孝士)

編集発行責任者

議長 佐藤 巖

議会広報編集委員

委員長 岡崎 隆

副委員長 半澤 敏美

委員 佐藤 貴久

委員 山崎 剛

委員 平間 孝士

委員 安藤 征夫